

アクションカード

(支 部 用)



浅口市金光町須恵区自主防災会

平成30年9月

目 次

- A 第一集合場所に到着
- B 避難確認終了 救助
- C 安全確認
- D 地区災害本部への状況報告
- E 異変発生
- F 待機
- G 第一集合場所から避難所へ移動
- H 避難所(吉備小学校)

A 第一集合場所に到着

①一番に到着した人が暫定支部リーダーです。

②支部長が到着するまで

《確認、指示》します。

震災時持ち出し資料袋から
支部地図、ペンを出してチ
ェックしていきます。

③チェックリスト

A—1 支部の全世帯が避難していますか？

「いいえ」なら ➔ B—1 へ

A—2 要支援者は全員いますか？

「いいえ」なら ➔ B—1 へ

A—3 世帯ごとに全家族が避難しています
か？

「いいえ」なら ➔ B—2 へ

A—4 けが人、体調不良の人がいますか？

「はい」なら ➔ B—3 へ



避難者が3人以上そろったら活動を開始します。
全てにおいて単独行動、リーダーに報告の無い
活動・移動は禁止です。

B 避難確認終了 救助

次に来るのが本震だと思う事が大切です。
すべての活動は二人以上で行います。
少しでも危険があれば避けます。

- B－1 家の前まで行き声をかける。
「異常時」 → E－1、－2、－4
- B－2 不在者の確認
「仕事や学校、旅行に行っている。」
(行動が明確な場合)
→ 不安でも連絡待ち
「行方不明」 → E－3
- B－3 けが人、体調不良の人がいたら安全な場所、日陰など確保して休ませる。
元気な人を2人以上付き添わせる。
「重症」 → E－4
- 落ち着いたら → Cへ。

※避難時の異常事態に対しては何よりも現場の安全状況判断が優先する。

C 安全確認

次に来るのが本震だと思う事が大切です。
すべての活動は二人以上で行います。
少しでも危険があれば避けます。

倒壊の恐れがないなら

- 1 屋内より短時間で避難に必要な最低限度のものを持ち出すよう指示する。
- 2 家の主電源ブレーカーを落とす。
- 3 支部内および近辺の道路、地形の安全確認。



落ち着いたら → Dへ

※避難時の異常事態に対しては何よりも現場の安全状況判断が優先する。

D 地区災害本部への状況報告

次に来るのが本震だと思う事が大切です。
すべての活動は二人以上で行います。
少しでも危険があれば避けます。

- 1 電話・スマホで本部役員に連絡。
※災害時はつながらない。
- 2 基本的に徒步による連絡が原則です。

本部への報告内容は

- | | | |
|---------|---------------|--------|
| ○避難世帯数 | ○避難人数 | ○不明者人数 |
| ○家屋被害状況 | ○負傷者・病人の有無、状況 | |
| ○道路等の状況 | ○危険地帯 | |
- 等々各種情報

落ち着いたら ➡ Gへ

※避難時の異常事態に対しては何よりも現場の
安全状況判断が優先する。

E 異変発生

E—1 倒壊家屋から声が！

状況を確認しながら多人数で、あくまでも安全を確保した上で救出。人手不足なら隣接した支部に協力を求める。

E—2 火災発生！

状況を確認しながら多人数で、あくまでも安全を確保した上で初期消火。天井に達した火災は初期消火では難しいので近づかない。

消防署に連絡。

E—3 買い物や外出のため行方不明！

近辺なら2人以上で捜索を行う。

遠方なら無事避難を信じて連絡を待つ。

E—4 重傷者がいます！

地区災害対策本部には簡単な救急セットしかありません。本部に連絡を取りできる限りの手段を模索します。

移動時の搬送用に簡易タンカを作ておく。

※避難時の異常事態に対しては何よりも現場の安全状況判断が優先する。

F 待機

- 1 市指定避難所(吉備小学校)開設まで時間がかかります。
何時間、も第一集合場所で地区災害対策本部からの連絡を待つ事になります。
- 2 季節による体温低下、脱水症状、暑さ対策、害虫被害、天候による風雨、雷、雪等々の被害、夜間照明の準備をする。
- 3 近辺の地形や状況をよく確認して2次災害に備える。
- 4 ラジオなどで情報を入手し、不安による精神力の低下、落ち込みを避難者同士で励ましあう。
- 5 第一集合場所が危険な場合、間違いなく安全な場所・施設があれば、第一集合場所に移動先を貼り紙して移動する。
- 6 落ち着いていれば世帯ごとに避難者カードを記入し、リーダーが保管します。

落ち着いたら → Gへ

※避難時の異常事態に対しては何よりも現場の安全状況判断が優先する。

G 第一集合場所から避難所へ移動

地区災害対策本部から、避難所へ移動の指示が来たら、早い者勝ちではないのでゆっくりと出発準備をします。

- 1 避難所までの移動ルートを確保する。
- 2 危険個所は必ず迂回します。
- 3 移動が危険と判断すれば現状待機、災害対策本部もしくは避難所と（連絡が可能なら）連絡を取り救助を待ちます。
- 4 移動時は子供・老人・けが人等を行列の中心にして、一番弱っている人に歩行速度を合わせゆっくりと移動します。

移動により → Hへ

※避難時の異常事態に対しては何よりも現場の安全状況判断が優先する。

H 避難所(吉備小学校)

到着してからも単独行動は絶対にしない事。
トイレ等移動は短時間でも支部内で連絡を取り合いを行う。

- 1 まず小学校校庭の指定場所へ支部毎に集合。
(雨天等により校舎内の場合もある。)
- 2 けが人等急を要する事情は本部に報告します。
- 3 対応の判断ができない場合は支部災害本部の指示を受ける。

お疲れさまでした。
これで安心ですよ！

